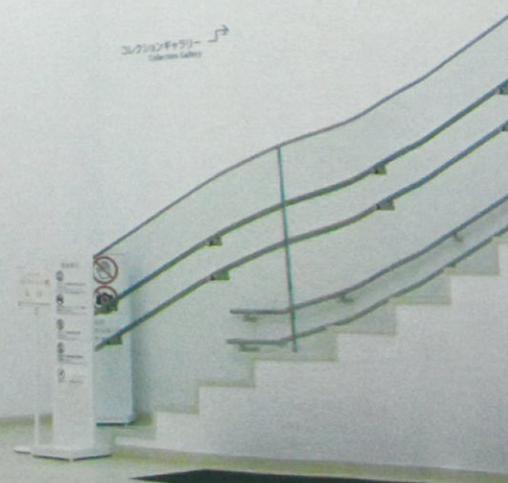




平成 25 年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及 報告書



コレクションギャラリー
Collection Gallery



CONTENTS

- 04 館長あいさつ
- 05 本年度の取り組み
- 06 キュレータートーク・学芸員の声
- 07 アーティストトーク・作家の声
- 08 鑑賞ボランティア活動報告・ボランティアの声
- 09 美術館活用についての講演会
- 10 バス招へい事業「美術館へ行こう」・児童の声
- 12 美術館は教室だ！
- 13 アウトリーチ
- 14 美術講座
- 15 ワークショップ
- 16 展覧会関連ワークシート
- 17 バックヤード
- 18 移動展
- 19 展覧会関連催事 スタジオジブリ・レイアウト展、
平山郁夫展－大唐西域画への道－、京都 清水寺展
- 20 展覧会関連催事 安次嶺金正展－緑の抒情－
- 21 展覧会関連催事 森山大道 終わらない旅 北／南展
- 22 実施統計
- 27 奥付

館長あいさつ

平成 19 年 11 月に開館した沖縄県立博物館・美術館は今年で 6 年目に入り、入館者数は 300 万人に達しました。これも県民の皆様をはじめとする県内外の多くの方々の方々の当館に対する期待の表れだと感じており、また、我々の責任の重さを示しています。

美術館の主な活動内容には 5 つの柱があります。収集・保存・調査研究・展示公開、そして教育普及があげられます。美術館が単なる施設ではなく、文化や知識の発信地となるために、美術館学芸員の専門的なアプローチとともに、誰もが美術や芸術に対する「美意識」を共有することができる場として教育普及活動があると思います。

本報告書は、平成 25 年度に実施した企画・コレクション展関連催事、学校団対鑑賞プログラム、各種ワークショップ、ワークシート制作、バックヤードツアー、鑑賞ツアー、アウトリーチ、移動展などの幅広い活動の内容をまとめたものです。

本報告書が、皆様にとって県立美術館を活用する一助になれば幸いです。

沖縄県立博物館・美術館 館長 安里 進

本年度の取り組み

本年度の教育普及事業では、学校との連携を高めるために必要な事業に重点を置きました。(ガイドボランティアの育成、学校団体対応鑑賞プログラムの実践、バス招待事業) また、各種ワークショップの充実も図り、一般・子ども向けワークショップに加え、恒例の夏期子ども向けワークショップ等において、たくさんの幼児児童生徒が参加し創作活動を行いました。

さらに、企画展・コレクション展関連催事のシンポジウムや講演会、アーティストトークやキュレータートークを通して作品理解が深まる情報を提供してきました。

キュレータートーク

キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が開催中の展示作家や作品に対する展示コンセプトを語り、そして展覧会を開催するにあたり進めてきた調査・研究した内容を語る場でもある。

観覧者にとって、学芸員の話聞くことで「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また、学芸員にとっては観覧者に展示コンセプトが伝わったか、作品を広く理解することができたかを知る重要な機会となり、今後の展覧会への向けての情報収集となる。



学芸員の声

キュレータートークは、鑑賞者に対して展示内容を解説する機会を提供します。展示コンセプト、作品解説、時代背景、作家の情報などの情報から適切な内容を総合的に理解することでより深く作品を鑑賞する一助となると思います。

(大城直也)



アーティストトーク



アーティスト・ギャラリートークは、展覧会に出展している作家及びゆかりのある方から話を聞く機会である。

作家自身の言葉には、作品鑑賞だけでは読み取れない気付きがある。その人となりを知ることにより作品に対する理解が深まればと考える。

作家の声

「芸術、その本質への帰還」 ウエチヒロ(画家)

本来、芸術とは「作家の個性を生かしながら、全体のため、また自身のために行う美と喜びの創造活動」ではないだろうか。世の中に役立つ鑑賞者に喜んでもらい、自分自身も喜びを得る。そのような創作と鑑賞の二重目的を合わせ持つのが芸術活動の在り方だと思っている。

いつの時代も作家たちは権力者の圧政や迫害、理不尽な振る舞いに対して果敢に挑み続けてきた。

さまざまな表現が多くの民衆を魅了したのも確かである。しかし、社会主義を主張する作品だけが芸術だという訳でもない。現代アートは、それこそ多種多様な広がりを見せ、今や何でも有りの状況にある。中には、低俗化する傾向も見受けられる。それらの作品は、道徳心や良心を失った罪悪世界そのままに自己中心的な表現に陥り、鑑賞者に不安や恐怖や不快感を与えている。個人的な偏見だと思われる構わないが、それは芸術の墮落に繋がるような気がする。特異な個性を尊重するにしても表現に内容には人としての倫理があってしかるべきだと思うのだが・・・

荒れた世界、乱れた世界が生み出した退廃的な芸術は、やがて終焉を迎えるにちがいない。そして、苦難を克服した希望に満ちた表現は芸術の本質に還るだろう。アートが社会を変えるのに役立つのであれば、理想世界の到来を人々に知らせるような新たな創造活動も起こり得る。それを今後に期待したい。いや、すでにあらゆるジャンルで芽吹いているのではないだろうか。



ボランティア活動報告

美術館では、美術館を舞台に活躍するボランティアスタッフがいる。その活動は、学校団体対応、ワークショップ、資料整理の3グループから成り、今年度も各々が得意分野を生かし活動を広げることができた。

ボランティアの声

「美術館ボランティアになって」

赤嶺 裕也

私は、美術館をゆっくり見て回ったり、絵を描いたりすることが好きだ。これは個人的で、極論すれば孤独な趣味だと思っていた。

今回、県立沖縄ろう学校高等部の美術鑑賞を手伝う事になり多少の不安を覚えた。あまりに環境が違いすぎる。

しかし、当日になってそれが杞憂にすぎないと思いついた。手話通訳を通していたが、彼らの素直で豊かな感性に触れ、個性的な美術の捉え方に感動した。美術に正解はない。現代のコンピューター社会といわれ何にでも白と黒をつけたがる窮屈な社会で、懐が深く、誰でも受け入れ、結び付け、遊ばせてくれる美術の世界はますます存在価値を高め、光り輝くだろうと思われた。いい一月であった。



ボランティアの声

「美術館ボランティア活動を通して」

安次嶺 恵子



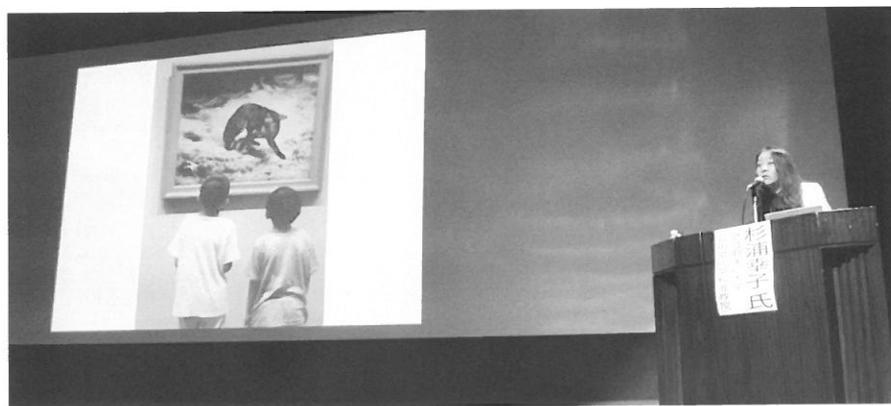
美術館の広い空間と初めて出会う作品を前にして、子ども達の思いは期待と少しの緊張もあるだろうが、どの子も真剣な顔で作品と向き合い、こちらの言葉かけに自身の感性と経験から思いを懸命に話してくれます。まさに、作品を通してお互いの相互交流が生まれる充実した時間です。あるグループでは、描いている物に関連づけ短編のストーリーを楽しそうに話す子がいて、他の子も

ストーリー作りをしたり、ある絵の前では、一人の子が「おばあさんの家の所に似ている。」との声から皆が立ち止まり、賑やかな会話が生まれました。子どもたちの感性は豊かで、絵からリズムを感じるとか、冷たさ・温かさはもちろんのこと、作品の前では、一人ひとりの様々な思いや言葉が行き交い思考している様子が見取れます。活動を通して、子ども達の感性が刺激され「鑑賞は、楽しくておもしろいな。行って良かったな。」と、思えてくれたら嬉しいです。

美術館活用についての講演会

学校教育における美術活用の県内の教職員を対象に、武蔵野美術大学准教授杉浦幸子氏をお招きして、「学びの場としての美術館」と題し杉浦氏のこれまでの実践例から美術館の活用のヒントをいただくことができた。また、全体討論では、現場の先生方から美術館に対する意見をいただき、今後の学校と美術館との関係を結びつける糸口が得られた。

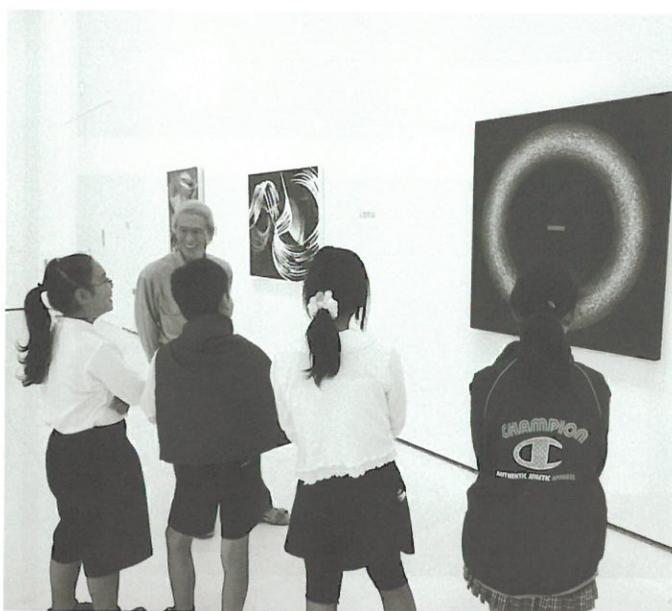
- 日 時：平成 25 年 7 月 25 日（木） 14:00 ~ 16:30（13:30 受付）
 場 所：博物館・美術館講堂
 対 象：幼小中高等学校教諭、一般、美術館ボランティア員
 日 程：14:00 ~ 14:05 はじめのあいさつ
 14:05 ~ 14:25（20分）美術館教育普及活動の紹介
 美術館教育普及担当 大城直也
 14:30 ~ 15:10（50分）「学びの場としての美術館」
 杉浦幸子 氏（武蔵野美術大学 准教授）
 15:10 ~ 15:40（30分）「コレクション展 鑑賞」
 15:45 ~ 16:25（40分）ディスカッション
 「展示作品を見ての意見交換を行う」
 杉浦幸子 氏（武蔵野美術大学 准教授）





回	月日	曜日	学校名	学年
1	10月1日	火	宜野湾市立宜野湾小学校	5年生
2	10月31日	木	うるま市立川崎小学校	6年生
3	11月1日	金	沖縄市立室川小学校	5年生
4	11月14日	木	うるま市立高江洲小学校	4年生
5	11月21日	木	うるま市立あげな小学校	6年生
6	11月26日	火	うるま市立あげな小学校	4年生

昨年度から、5カ年計画で「美術館に行こう」と題した美術館バス招待事業を実施した。今年度は中頭地区の小中学校及び高等学校に対して公募を行った。公募の結果10月から12月までの3ヶ月に6校(453人)の児童が美術館に足を運ぶことができた。美術館に来る前に事前に出張授業を行い、そこでティーチャーズキットやアートカードを活用した鑑賞の授業とマナーを学んだ。その後で実際に、ガイドボランティアと一緒に美術作品を鑑賞する中で多くの感動体験が生まれた。児童にとってこの体験が美術鑑賞のスタートとなり、今後の美術館鑑賞に大きな期待をもたらす結果となった。



美術館で「感じる」授業。

正解を求めない問いかけ。一人ひとり違う答え、そして成長。子どもたちの感性が広がる。リードする「感じる」ことから始める「授業を美術館で」。

鑑賞授業

何を感じたかを整理する

感じた事を伝える

観察力を養う

色の純粋な無難の相違

他者を理解するコロコロ

様々な視点から見ることも大切

鑑賞対話型

色、形、線の異なるものに気づく

作品に自分とを近づける

今の自分を知る

作品の中に入ってみよう

創造性が生まれる

作品からメッセージを読み取る

※本館が主催する鑑賞授業は、子どもたち一人ひとりの感性を大切にしながら、作品の魅力を伝えることを目的としています。また、子どもたちの感性を育てることを目的としています。また、子どもたちの感性を育てることを目的としています。

こんな作品を見る事ができます

絵画から考える郷土・沖縄

2007年11月、沖縄県ではじめての郷土美術館が完成しました。明治以降の沖縄の美術を体系的に展示し、本土と異なる風土と歴史の中から生まれた郷土の文化を表現した作品が多数あります。沖縄の風土と歴史を伝えるために、本館では郷土の文化を表現した作品を展示しています。また、子どもたちの感性を育てることを目的としています。

美術にふれる3つのコース

ガイドボランティアと鑑賞

ここでは、ガイドボランティアと一緒に鑑賞します。ガイドボランティアは、作品の魅力を伝えることができます。また、子どもたちの感性を育てることを目的としています。

児童・生徒がグループで鑑賞

ガイドボランティアと一緒に鑑賞します。また、子どもたちの感性を育てることを目的としています。

自由に鑑賞

自分の好きな作品を鑑賞することができます。また、子どもたちの感性を育てることを目的としています。

美術館での鑑賞のメリット

見る 考える 話す 聞く

本日は、作品の大きさによる違い、色や形の異なる作品、見方によって異なる印象の作品を、美術館の展示場で鑑賞することで作品の魅力を伝えることができます。

「鑑賞対話型鑑賞」は、子どもたち一人ひとりの感性を大切にしながら、作品の魅力を伝えることを目的としています。また、子どもたちの感性を育てることを目的としています。

今年度は、正式に学校団対鑑賞プログラムを導入し、学校団対を対象に対応することとなった。3月に学校向けにパンフレットを配布し、募集を行い本年度は8校(639人)の児童生徒がガイドボランティアとともに作品鑑賞することができた。

回	月日	曜日	学校名
1	8月16日	金	糸満市立糸満中学校
2	10月3日	木	昭和薬科付属中学校
3	10月17日	木	うるま市立城前小学校
4	11月12日	火	南城市立船越小学校
5	11月29日	金	八重瀬町立白川小学校
6	12月10日	火	沖縄県立浦添工業高等学校
7	12月18日	水	豊見城市立伊良波小学校
8	2月18日	火	沖縄県立ろう学校 高等部



アウトリーチとは、美術館館外活動のことを総じての名称である。館外活動といっても美術館作品を館外で持ち出しての鑑賞であったり、講師や作家を招聘しての特設授業であったり様々だ。今回は、自ら身体的なハンディをもちながら世界で活躍するダンサーと沖縄の第一線で活躍するデザイナーを学校に派遣してアウトリーチを行った。

■ ダンスプロジェクト in 沖縄県立ろう学校

心を解放して、身体を動かすことで、自己自身の新しい表現を感じることをテーマにアーティストとともに身体表現活動を通して感覚の居場所を感じる機会とする。

栗境 [DAKEI] 演出、ダンサー

日 時：平成 25 年 7 月 16 日（火） 10:00 ~ 13:00

場 所：沖縄ろう学校

受講生：沖縄県立ろう学校 中等部生徒 12 人



■ デザインプロジェクト in 浦添工業高等学校

作家の学生時代の様子やこれまでの作家活動の経緯と制作作品の解説をしていただいた。また、実際のデザイナーの仕事の例にデザインの社会的役割や方向性等をわかりやすく解説した。さらに、質疑応答ではこれまで疑問に抱いたことや制作上の悩みなどの助言をいただき今後の作品制作に活かしてほしい。

「沖縄のデザインについて」 岸本一夫 氏（デザイナー）

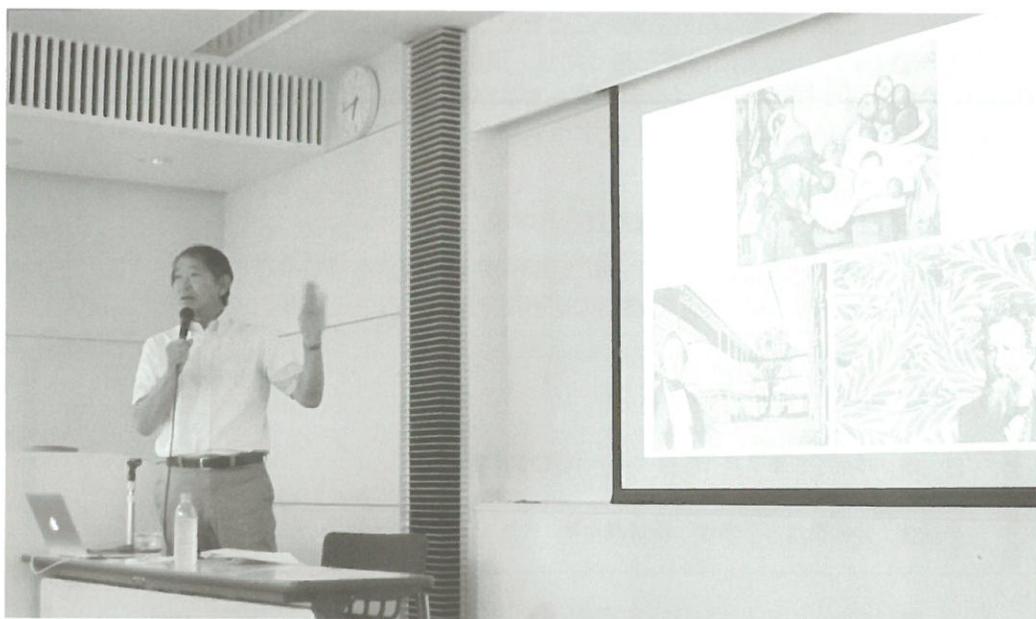
「デザインに現場から」 内間安彦 氏（デザイナー）、吉田コマキ 氏（デザイナー）

日 時：平成 26 年 2 月 25 日（火） 12:20 ~ 14:40（授業時数 2）

場 所：沖縄県立浦添工業高等学校 視聴覚室

受講生：浦添工業高等学校デザイン科 1 学年 78 人

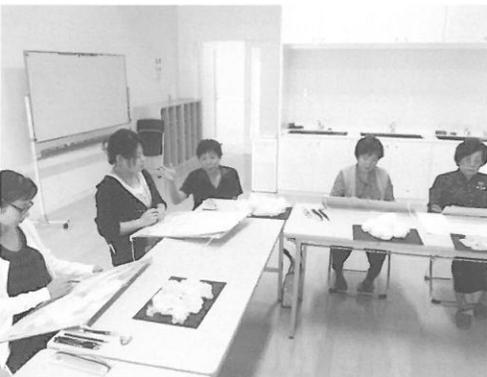
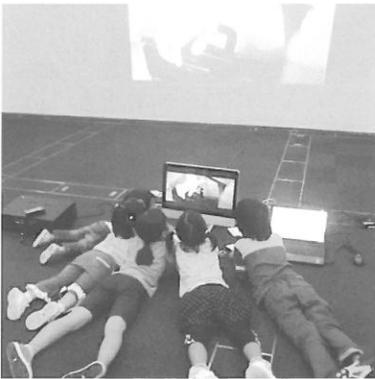




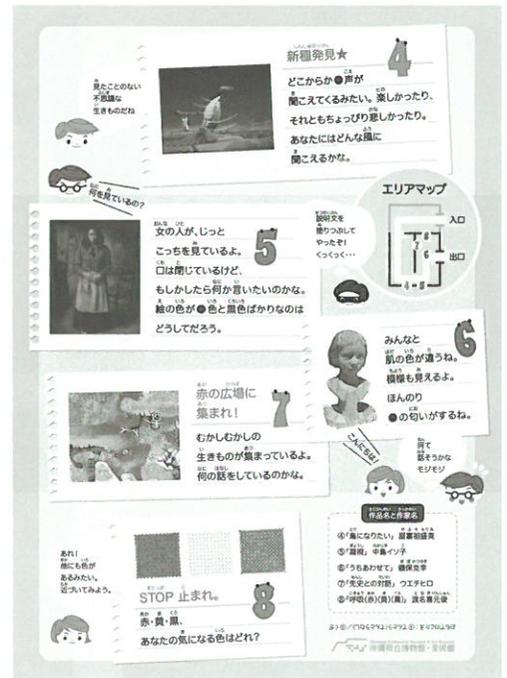
本年度の美術講座は、「建築」「デザイン」「美術工芸」について開催。建築の回では、真喜志好一氏に建物による空間が人に与える影響について、北村義典氏に建築における「美」とその歴史を辿るお話、デザインの回では岸本一夫氏に沖縄のデザインの変遷を切手やポスターなどを紹介、美術工芸の回では岡本亜紀氏に近代沖縄の工芸品を中心に講話いただいた。



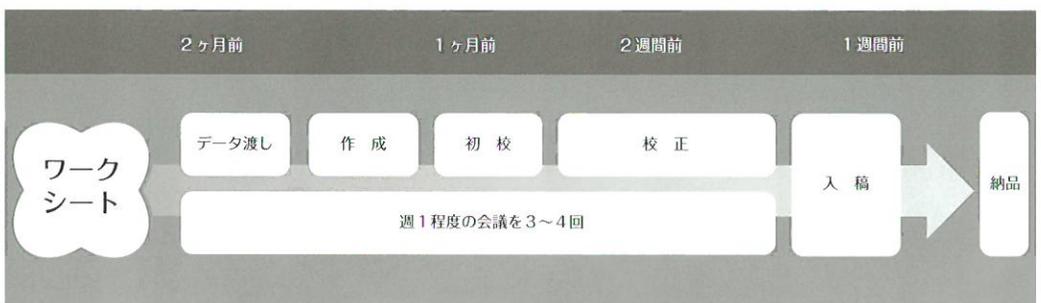
展示と関連させたプログラムに加え、県立芸術大学と共同でフィレンツェ美術大学のエドアルド・マラジーゼ氏を講師に迎えたワークショップを行った。環境問題に目を向け、沖縄の海から拾った廃材を材料にジュゴンをつくった。誰もが気軽に参加できる内容で多くの方に参加いただいた。夏の子どもフェスタも館内の窓ガラスいっぱい作品を描くなど楽しんで観る側も楽しめた。また、身体表現のワークショップも開催。年度末の3月には「修了作品展」を開催。それぞれの作品からワークショップの様子が思い出されるようだった。

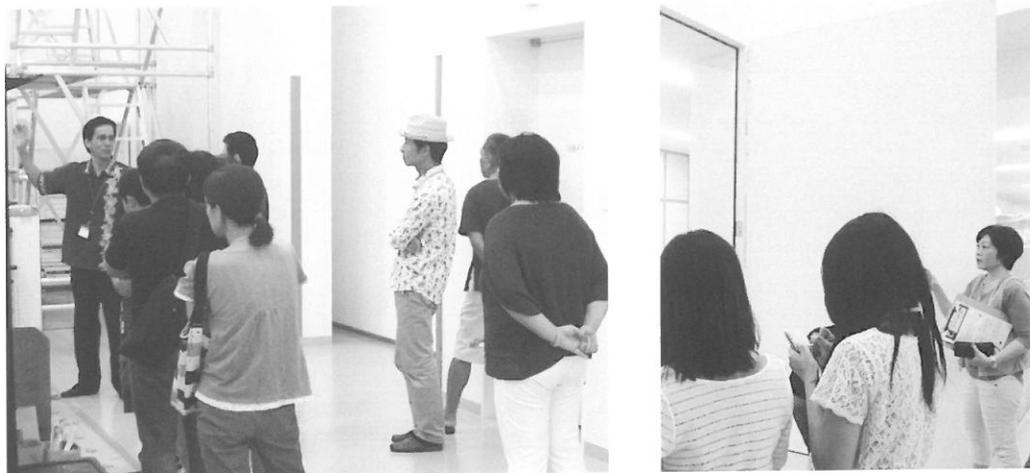


通年で展示を行うコレクションギャラリー3のシートを作成。子ども向けに穴埋め問題を設定し、クイズのように解いていく楽しみをもたせた。色や形、素材などが特徴的な作品を選び、作品へ興味を持ってもらえるよう心掛けた。



■ 制作スケジュール ■





「美術作品が、どのように鑑賞する場へと辿りつくのだろうか？」

そのような疑問にお答えすることが、バックヤード・ツアーの使命である。

普段はお見せできない、ヒミツの場所・・・はないが、できうるかぎり美術館の裏側を、エピソードも交えてお話をさせていただくように心がけている。

美術作品を保存するためには、使われた絵の具などを特定するための「調査」実績と、照度などの劣化を、最小限度に抑えるための「展示技術」を備えた、学芸員としての仕事も紹介している。参加者に、お子さんがいらっしゃる時は、なるべくわかりやすい言葉でお話しているが、お子さん用の探検式プログラムも、ご用意できれば、もっともっと楽しめるだろうと考えている。



移動展 in 渡名喜島

渡名喜島での開催は旧博物館時代から31年ぶり2度目。地元の協力のもと、事前に全島民にパンフレットを配布して周知した他、島内放送で呼びかけていただき、住民（登録数）の約50%にご来場いただいた。会期前には小中学生を対象にワークショップを開催し、その作品を会場の一角に展示したほか、会期中には小中学校での出前講座や会場でのキュレータートークなど学芸員による普及活動を行った。展示会場では先生と生徒が授業の一環で訪れ、自然に対話式鑑賞へ発展する場面もあり、出前講座の効果が感じられた。友人同士でくり返し訪れる小中学生もおり、4～5人で対話しながら、あるいは1人で作品を見つめ鑑賞する姿が見られた。度々足を運び、熱心に鑑賞する大人や年配の来館者もおり、「作品の見方がわかって良かった」「作品のエピソードが面白かった」「美術館が好きなので、久しぶりに絵を見る事ができて嬉しい」「また来て欲しい」などの声をいただいた。

（大城仁美）



移動展 in 渡名喜島

会期：11月29日（金）～30日（土）

時間：9:00～17:00（最終入場：16:30） *1日目は18:30まで延長

会場：渡名喜小中学校体育館、多目的活動施設ホール

総入場者数：美術館 202人

■ スタジオジブリ・レイアウト展 ■

会期：平成 25 年 2 月 22 日（金）～5 月 6 日（月）

「風の谷のナウシカ」から「コクリコ坂から」まで、約 1,300 点のレイアウトを公開、アニメーションの魅力が詰まった「レイアウト」を読み解く展覧会として開催。6 時間 40 分にわたるドキュメンタリー映像の上映や制作の裏側を紹介する講演会、エントランスコンサートを行い、幅広い層の観覧者で賑った。

■ 佐川美術館所蔵 平山郁夫展—^{だいたうさいいきが}大唐西域画への道— ■

会期：平成 25 年 5 月 15 日（水）～6 月 23 日（日）

「大唐西域画」「シルクロードシリーズ」などのなかから本画と素描を展示。ギャラリートークや演奏会の他、日本画の技法を伝えるワークショップと平山作品の背後にある文化財保護の思想や文明論について講演会を通して知ることができた。



講演会

講師：入澤崇氏
（龍谷ミュージアム館長・龍谷大学文学部教授）

日時：6 月 9 日（日）14:00～15:30
会場：博物館講座室
参加者：117 人

日本画ワークショップ

講師：喜屋武千恵氏（日本画家）
日時：5 月 18 日、25 日、6 月 1 日、8 日
（全て土曜日）10:30～12:00

会場：実習室
参加者：15 人

ギャラリートーク

講師：國吉貴奈（文化の杜共同企業体学芸員）
日時：5 月 25 日（土）11:00～11:30

会場：企画ギャラリー
参加者：38 人

■ 寛永再建 380 年記念 京都 清水寺展 ■

会期：平成 25 年 11 月 2 日（土）～12 月 8 日（日）

頭上に両手を伸ばした「清水型千手観音」とも呼ばれる本堂十一面千手観世音菩薩立像（御本尊御前立）をはじめ、本堂や奥の院などの仏像や屏風、書画などの貴重な寺宝と資料を紹介。清水寺買主、森清範師による講演会や清水寺学芸員によるギャラリートーク、展覧会担当学芸員によるギャラリートークなど仏教美術について学ぶ機会となった。

ギャラリートーク

講師：仲里なぎさ（文化の杜共同企業体学芸員）
日時：11 月 16 日（土）11:00～12:00

会場：企画ギャラリー
参加者：38 人

■ 安次嶺金正展―緑の抒情― ■

会期：平成 25 年 9 月 10 日（火）～平成 25 年 10 月 27 日（日）

本展覧会は安次嶺金正の生涯と画業の精華を公開する機会となり、その変遷を検証する展覧会となった。第 1 章から第 4 章に分けて展示構成され、戦前から戦後にかけて安次嶺金正の絵画 120 点余りの作品が会場に並んだ。

本展覧会や基調講演、シンポジウムにおいては安次嶺絵画について新たに検証され、安次嶺絵画の深奥について触れる機会が得られた。沖縄戦後美術を牽引した画家の一人としてその画業を捉えたことは、沖縄美術を始め、文化や自然について改めて考える契機となり、新たな沖縄美術の領域を提示するものであったと思われる。（仲里安広）



シンポジウム「安次嶺金正の絵画」

日 時：9 月 29 日 14:00～17:00
会 場：沖縄県立博物館・美術館 講堂

参加者：87 人

基調講演

「安次嶺金正の絵画」

稲嶺成祚 氏（画家・琉球大学名誉教授）

パネルディスカッション

「安次嶺金正の絵画」

稲嶺成祚 氏、仲井間憲児 氏（フリーランサー）、岸本一夫 氏（デザイナー）、永津禎三 氏（琉球大学教授）

コーディネーター 仲里 安広（展覧会担当学芸員）

ギャラリートーク

講 師：①安次富長昭 氏（琉球大学名誉教授）、
②稲嶺成祚 氏（画家・琉球大学名誉教授）
日 時：①9 月 14 日（土）、②10 月 27 日（日）
いずれも 11:00～12:00

会 場：企画ギャラリー
参加者：① 23 人、② 32 人

キュレータートーク

講 師：仲里安広（展覧会担当学芸員）
日 時：①9 月 21 日（土）、②10 月 5 日（土）
いずれも 11:00～12:00

会 場：企画ギャラリー
参加者：① 10 人、② 11 人

ワークショップ

県内の中高生を対象に『緑のおくりもの』をテーマにグループでイラストを公開共同制作を行い、審査会を行った。

日 時：10 月 13 日（日）9:30～17:00
会 場：エントランス（高校生）、実習室（中学生）

参加者：
高 校：宜野湾高（4 名）、那覇高（7 名、2 グループ）
中 学 校：大里中（10 名、2 グループ）、港川中（10 名、
2 グループ）、佐敷中（4 名）、浦西中（6 名）

■ 森山大道 終わらない旅 北／南展 ■

会期：平成26年1月23日（木）～3月23日（日）

国際的な注目を集める森山大道（1938-）の個展「森山大道 終わらない旅 北／南」展は、森山がフリーの写真家として活動をはじめから、ちょうど50年の節目に開催された。本展では50年にわたり現代写真に圧倒的な影響力を発揮した森山大道の写真の魅力を代表作で紹介すると共に、タイトルにある「北／南」は、北の北海道を撮影した写真群と最新作である南の沖縄を撮影した写真群を大型のデジタルプリントで対峙させようという新たな試みを示した。



「写真よさようなら」と題したシンポジウムでは森山大道氏と石川直樹氏のトークやスライドレクチャーを通し様々な視点から深層に触れる機会が得られた。また、アーティストトークでは来館者の前で本人の声を届けることができた。関連催事として行ったポートフォリオレビューでは若手作家に対する森山氏の期待が感じられた。（新里義和）

シンポジウム

日 時：1月25日（土）14:00～18:00
会 場：沖縄県立博物館・美術館 講堂

参加者：153人

第1部：

対談「写真よさようなら」をめぐる 森山大道氏（写真家）、石川直樹氏（写真家）

第2部：

スライドレクチャー：大竹昭子氏（作家）

第3部：

パネルディスカッション：終わらない旅 <写真とは何か>

大竹昭子氏、玉城惇博氏（沖縄映像センター代表取締役）、
仲里効氏（批評家）、石川直樹氏

コーディネーター 新里義和（展覧会担当学芸員）

ギャラリートーク

講 師：①玉城惇博氏（沖縄映像センター代表取締役）
②仲里効氏（批評家）

会 場：企画ギャラリー
参加者：①14人、②20人

日 時：①2月8日（日）14:00～15:00
②3月9日（日）14:00～15:00

キュレータートーク

講 師：新里義和（展覧会担当学芸員）
日 時：①1月24日（金）、②2月15日（土）
いずれも11:00～12:00

会 場：企画ギャラリー
参加者：①20人、②14人

ポートフォリオレビュー展

事前公募し選考の上、5人の入賞者による展覧会を1月21日（火）～1月26日（日）当館県民ギャラリーにて実施。会期中、森山大道氏による講習会を開催。

講 師：森山大道氏（写真家）
日 時：1月24日（金）15:00～16:00

会 場：県民ギャラリー 1.2.3
参加者：68人

1. キュレーター（ギャラリー）・トーク

（展示会担当学芸員による作品・作家解説 11:00～）

回	月日	曜	展示会名	参加者
1	5月18日	土	国際博物館の日「コレクション展」	55
2	5月25日	土	「平山郁夫展」	38
3	6月15日	土	「東松照明と沖縄の植物」	10
4	7月20日	土	子ども美術展「アートであーと」	9
5	8月17日	土	「沖縄美術の流れ」	2
6	9月21日	土	「安次嶺金正展」	10
7	10月5日	土	「安次嶺金正展」	11
8	10月12日	土	「安次嶺金正展」	11
9	10月19日	土	「コレクションで見る沖縄の映像」	6
10	11月16日	日	「京都清水寺展」	38
11	12月21日	土	りゅうせきコレクションより「新しいローカルを求めて」	4
12	1月24日	金	「森山大道 終わらない旅 北／南」	20
13	2月1日	土	「丸山彫刻展」	3
14	2月15日	土	「森山大道 終わらない旅 北／南」	18
15	3月8日	土	「沖縄美術からみた手仕事」	42

2. アーティスト（ギャラリー）・トーク

（展示作品制作者又は関係者による作品解説 14:00～）

回	月日	曜	展示会名	講師	参加者
1	5月18日	土	国際博物館の日「コレクション展」	稲嶺成祚	33
2	6月8日	土	「東松照明と沖縄の植物」	新城和治	42
3	7月13日	土	子ども美術展「アートであーと」	ウエチヒロ	26
4	8月10日	土	「沖縄美術の流れ」	城間喜宏 / 高良憲義	68
5	9月14日	土	「安次嶺金正展」	安次富長昭	23
6	10月12日	土	「コレクションで見る沖縄の映像」	岡村恵子	28
7	10月27日	土	「安次嶺金正展」	稲嶺成祚	32
8	12月14日	土	りゅうせきコレクションより「新しいローカルを求めて」	大城久美子	25
9	2月8日	土	「森山大道 終わらない旅 北／南」	玉城惇博	14
10	2月15日	土	「丸山彫刻展」	上條文穂 / 大田和人	23
11	3月8日	土	「沖縄美術からみた手仕事」	上原美智子	73
12	3月9日	日	「森山大道終わらない旅 北／南」	仲里効	20

3. 鑑賞ボランティアツアー

（ガイドボランティアによる一般観覧者を対象とした鑑賞会 13:00～）

回	月日	曜	展示会名	参加者
1	4月27日	土	「沖縄美術の流れ」	4
2	5月25日	土	「沖縄美術の流れ」	8
3	6月22日	土	「東松照明と沖縄の植物」	4
4	7月27日	土	子ども美術展「アートであーと」	7
5	8月24日	土	「沖縄美術の流れ」	9
6	9月26日	土	「沖縄美術の流れ」	8
7	10月26日	土	りゅうせきコレクションより「新しいローカルを求めて」	3
8	11月23日	土	「沖縄美術の流れ」	3
9	12月14日	土	「コレクションで見る沖縄の映像」	18
10	2月22日	土	「沖縄美術の流れ」	4
11	3月15日	土	「丸山彫刻展」	6
12	3月22日	土	「沖縄美術からみた手仕事」	9

(コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～)
 対象：登録ボランティア員

4. ボランティア養成講座

回	月日	曜	展示会名	参加者
1	4月 4日	水	本年度計画、更新手続き説明、講座「稲嶺成祚考察」	20
2	4月 25日	水	ボランティア親睦会	15
3	5月 8日	水	コレクション1の解説説明会	15
4	5月 29日	水	コレクション2～3の展示解説説明会	13
5	6月 5日	水	館外研修「浦添市美術館見学」	14
6	6月 26日	水	館外研修「佐喜真美術館見学」	11
7	7月 3日	水	対話式鑑賞法の実践研修①	15
8	7月 4日	木	開講式及び説明会、各班活動説明、要項確認	5
9	7月 18日	木	鑑賞ツアーについて(講義)	4
10	8月 8日	木	対話型鑑賞法(実技)①	4
11	8月 14日	水	「ニシムイ以降の作家 1950-1960」	10
12	8月 15日	木	アートカードの使い方(実技)	5
13	9月 5日	木	「ニシムイ以降の作家 1960-1970」	11
14	9月 26日	木	情報センターの活用方について	10
15	10月 2日	水	安次嶺金正展解説説明会	15
16	10月 30日	水	館外研修「ギャラリー訪問」①	11
17	11月 6日	水	コレクション1～2の解説説明会	11
18	12月 4日	水	「ニシムイ以降の作家 1970-1980」	16
19	12月 18日	水	ボランティア員親睦会	10
20	1月 8日	水	対話式鑑賞法の実践研修②	10
21	1月 29日	水	館外研修「那覇市立壺屋焼き物博物館見学」	6
22	2月 5日	水	コレクション1～2の展示解説説明会	9
23	2月 26日	水	森山大道展解説説明会	6
24	3月 5日	水	館外研修「壺屋見学」	6

(コレクション展に関する美術史及び絵画の見方等の講座 18:30～)
 対象：一般及び登録ボランティア員

5. 美術講座講座

回	月日	曜	展示会名	講師	参加者
1	7月 12日	金	「時間・空間と人の相互作用」	真喜志好一	18
2	7月 26日	金	「建築の伝統美」ー近代建築における機能主義と復古主義	北村義典	12
3	11月 8日	金	「オキナワンデザイン今昔」(前編)	岸本一夫	21
4	11月 22日	金	「オキナワンデザイン今昔」(後編)	岸本一夫	24
5	2月 14日	金	「近代沖縄の工芸ー染織・陶芸・漆器」	岡本亜紀	23

6. アウトリーチ(出前講座)

- (1) ダンスプロジェクト in 沖縄県立ろう学校 生徒 12 + 教師 9人参加
 ① 日 時：平成 25 年 7 月 16 日 (火) 11:00 ~ 12:50
 ② 内 容：アーティストと一緒に表現することで自己の新しい表現を感じる
 ③ 講 師：掣境 (D A K E I) (演出家・ダンサー)
 ④ 場 所：沖縄県立ろう学校
- (2) デザインプロジェクト in 浦添工業高等学校 生徒 78 + 教師 6人参加
 ① 日 時：平成 26 年 2 月 25 日 (火) 12:20 ~ 14:40
 ② 内 容：デザインの第一線で活躍する現場の様子とこれからのデザインを学ぶ
 ③ 講 師：岸本一夫、内間安彦、吉田コマキ
 ④ 場 所：沖縄県立浦添高等学校 デザイン科

7. ワークショップ

- (1) 子どもワークショップ①「海から来たおともだち ジュゴン変身計画！」 81人参加
 ①日 時：平成25年6月15日(土) 13:00～14:00(廃品集め) 15:00～17:00(制作)
 ②内 容：海にある廃品でジュゴンを制作する
 ③講 師：エドアルド・マラジーニ (フィレンツェ大学)
 ④場 所：博物館・美術館正面玄関前
- (2) 子どもワークショップ②「映像にみる(非)日常」 24人参加
 ①日 時：平成25年10月26日(土)「ピクシレーション」13:30～15:00(低学年)
 「逆再生動画」15:30～17:00(高学年)
 平成25年10月27日(日)「映像体験」10:30～12:00(未就学児)
 ②内 容：身体をつかった動きを通して映像体験をする
 ③講 師：大城愛香(デザイナー/高専非常勤講師)
 ④場 所：県民ギャラリースタジオ、県民子どもアトリエ
- (3) 子どもワークショップ③「からだのかたち」 22人参加
 ①日 時：平成26年2月22日(土) 13:30～15:00(未就学児) 7人
 平成26年2月23日(日) 10:30～12:00(低学年) 10人
 13:30～15:00(高学年) 5人
 ②内 容：からだの一部を粘土などの素材でつくる
 ③講 師：吉田俊景(彫刻家)
 ④場 所：県民子どもアトリエ
- (4) 一般実技講座①「日本画ワークショップ」 10人参加
 ①日 時：平成25年5月18・25日(土)、6月1・8日(土) 10:30～12:00
 ②内 容：日本画の基礎技能を学ぶ
 ③講 師：喜屋武千恵(日本画家)
 ④場 所：実習室
- (5) 一般実技講座②「絵からみえるもの—鉛筆デッサン」 10人参加
 ①日 時：平成25年10月12日・19日・26日(土) 10:30～12:00
 ②内 容：カタチのとらえにくい題材を鉛筆デッサンで表現する
 ③講 師：よねだはるひこ(画家)
 ④場 所：県民子どもアトリエ
- (6) 一般実技講座③「工芸ワークショップ—織りの表現」 15人参加
 ①日 時：平成26年2月8日・15日・22日(土) 10:00～11:30
 ②内 容：イメージ図案をもとに織り表現を体験する
 ③講 師：久田彩夏(染織家)
 ④場 所：県民子どもアトリエ
- (7) 一般実技講座④「接続の回路—感覚の居場所(ダンスプロジェクト)」 10人参加
 ①日 時：平成25年7月15日(日) 13:30～16:30
 ②内 容：自分の身体に向き合い、自分の動作を見つめ、相手の動作に感応する
 ③講 師：零境(DAKELI)(演出家・ダンサー)
 ④場 所：県民子どもアトリエ、エントランスホール
- (8) 美術館夏休み子供ワークショップ①「写生会」 27人参加
 ①日 時：平成25年8月17日(土) 9:00～13:00
 ②内 容：美術館周辺の公園で写生をする
 ③講 師：沖縄美術家協会(屋良朝彦、大城譲、鶴見伸、玉那覇英人、當間よしの)
 ④対 象：小学生(親子同伴)
 ⑤会 場：博物館・美術館周辺
- (9) 美術館夏休み子供ワークショップ②「キッズカメラマン」 13組参加
 ①日 時：平成25年8月17日(土) 14:30～16:30
 ②内 容：カメラの使い方と印刷の仕方を学ぶ
 ③講 師：仲本賢(県立芸術大学教授)
 ④対 象：小学生
 ⑤会 場：県民ギャラリースタジオ
- (10) 美術館夏休み子供ワークショップ③「粘土アニメ」 23人参加
 ①日 時：平成25年8月17日(土) 14:30～16:30
 ②内 容：ねん土のキャラクターを作りアニメを制作する
 ③講 師：又吉浩(県立芸術大学非常勤講師)
 ④対 象：小学生
 ⑤会 場：県民アトリエ
- (11) 美術館夏休み子供ワークショップ④「中庭水族館」 262人参加
 ①日 時：平成25年8月18日(日) 9:30～12:00
 ②内 容：ガラスに魚などを彩色して水族館にする
 ③講 師：大城直也(美術館学芸員)
 ④対 象：小学生
 ⑤会 場：美術館中庭

- (12) 美術館夏休み子供ワークショップ⑤「ここからはじまるアート」…………… 親子 12 組参加
 ① 日 時：平成 25 年 8 月 18 日（日）14:30～16:30
 ② 内 容：身近なものを利用して作品制作をする
 ③ 講 師：登紀美（元造形教育連盟理事）
 ④ 対 象：未就学児（親子同伴）
 ⑤ 会 場：子どもアトリエ
- (13) 美術館夏休み子供ワークショップ⑥「ワイヤーアート」…………… 10 人参加
 ① 日 時：平成 24 年 8 月 18 日（日）14:30～16:30
 ② 内 容：ワイヤーを使つての造形活動
 ③ 講 師：ゴヤ・フリオ（彫刻家）
 ④ 対 象：中学生
 ⑤ 会 場：県民ギャラリースタジオ
- (14) 企画展「安次嶺金正展」関連ワークショップ「緑のおくりもの」…………… 41 人参加
 ① 日 時：平成 25 年 10 月 13 日（日）9:30～17:00
 ② 内 容：「緑のおくりもの」をテーマにグループでイラスト制作、審査、表彰を行う
 ③ 審査員：川平恵造（画家）、安里進（県立博物館・美術館長）、仲里安広（美術館学芸員）
 ④ 対 象：高等学校 11 人（3グループ）、中学校 30 人（6グループ）
 ⑤ 会 場：エントランス（高等学校）、博物館実習室（中学校）
- (15) 企画展「森山大道展」関連ワークショップ「ポートフォリオレビュー」…………… 68 人参加
 ① 日 時：平成 26 年 1 月 21 日（火）～26 日（日）9:00～17:00
 ② 内 容：森山氏の審査により選ばれた 5 名による作品制作及び展示会
 ③ 講評会：平成 26 年 1 月 24 日（金）15:00～16:00 森山大道氏による作品講評会
 ④ 会 場：県民ギャラリー 1・2・3

8. 鑑賞学習支援事業「美術館へ行こう」

- (1) 児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う…………… 453 人参加
 ① 対 象：中頭地区小中学校 学年単位で 6 校
 ② 方 法：公募により学校を決定
 ③ 場 所：コレクション展示室
 ④ 内 容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月日	曜	学校名	見学者
1	10 月 1 日	火	宜野湾市立宜野湾小学校（5 年）	121
2	10 月 31 日	木	うるま市立川崎小学校（6 年）	64
3	11 月 1 日	金	沖縄市立室川小学校（5 年）	62
4	11 月 14 日	木	うるま市立高江洲小学校（4 年）	93
5	11 月 21 日	木	うるま市立あげな小学校（6 年）	51
6	11 月 26 日	火	うるま市立あげな小学校（4 年）	62

9. 図工・美術担当教職員等講座…………… 38 人参加

- ① 日 時：平成 25 年 7 月 25 日（金）14:00～17:00
 ② 内 容：美術館活用について
 ③ 講 師：杉浦幸子（武蔵野美術大学 准教授）
 ④ 会 場：美術館講座室、コレクションギャラリー 1

10. 展覧会関連講演会・シンポジウム

- (1) 「安次嶺金正展」関連シンポジウム…………… 87 人参加
 ① 日 時：平成 25 年 9 月 29 日（日）14:00～17:00
 ② 内 容：安次嶺金正の絵画の魅力について語る
 ③ 講 師：稲嶺成祐、仲井間憲児、岸本一夫、永津禎三
 ④ 会 場：沖縄県博物館・美術館講堂
- (2) 「森山大道」関連シンポジウム…………… 153 人参加
 ① 日 時：平成 26 年 1 月 25 日（土）14:00～18:00
 ② 内 容：森山大道の写真について語る
 ③ 講 師：森山大道、石川直樹、大竹昭子、玉城惇博、仲里効
 ④ 会 場：沖縄県博物館・美術館講堂

11. 美術館バックヤードツアー

- (1) 実施：毎月1回 土曜日 11:00～
- (2) 内容：普段観ることのできない美術館の裏側を学芸員が案内する
- (3) 定員：12名

回	月	参加人数
1	4月27日	8
2	5月18日	12
3	6月22日	12
4	7月27日	5
5	8月24日	13
6	9月28日	3

回	月	参加人数
7	10月26日	4
8	11月23日	9
9	12月14日	5
10	1月25日	4
11	2月22日	9
12	3月22日	8

12. 「移動展 in 渡名喜島」 202人入場

- (1) 会期：平成25年11月29日(金)・30日(土) (2日間)
- (2) 開催地：渡名喜村
- (3) 内容：絵画・映像作品の展示、実技講座

13. 研修対応

- (1) 学芸員実習
 - ① 期間：平成25年8月26日(月)～9月6日(金) 10日間(土、日を除く)
 - ② 参加者：10名(沖縄県立芸術大学)
 - ③ 内容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般
- (2) 職場体験
 - ① 期間：平成26年1月28日(火)～30日(木) 3日間
 - ② 参加者：2名(那覇市立城北中学校 1年生)
 - ③ 内容：職場見学
- (3) ジョブシャドー①(職場体験)
 - ① 期間：平成25年11月14日(木) 10:00～12:00
 - ② 参加者：1名(本部町立伊江島小学校 6年生)
 - ③ 内容：職場見学
- (4) ジョブシャドー②(職場体験)
 - ① 期間：平成26年1月28日(火)～30日(木) 9:00～15:00
 - ② 参加者：2名(城東中学校 1年生)
 - ③ 内容：職場見学

14. 学校団体見学対応 637人参加

回	月日	曜	学校名	見学者
1	8月16日	金	糸満市立糸満中学校	7
2	10月3日	木	昭和薬科大学付属中学校	225
3	10月17日	木	うるま市立城前小学校	75
4	11月12日	火	南城市立船越小学校	45
5	11月29日	金	八重瀬町立白川小学校	101
6	12月10日	火	沖縄県立浦添工業高等学校	81
7	12月18日	水	豊見城市立伊良波小学校	90
8	2月18日	火	沖縄県立ろう学校 高等部	13

平成25年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

平成26年3月31日

————— 発 行 —————

沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL.098-941-8200 (代表)

————— 教育普及担当 —————

大城直也 (沖縄県立博物館・美術館)
豊見山愛 (沖縄県立博物館・美術館)
町田恵美 (文化の杜共同企業体)
大濱萌子 (文化の杜共同企業体)
宜保はるな (文化の杜共同企業体)

